

N. T. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

①留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してから、ESL を探すこと、そして申し込むこと、ビザの取得で精一杯でした。ビザの手続きは ESL の大学を決め、その大学から I-20 をもらわなければならなかったため、かなり時間がかかりました。その為、JTB のビザ代行センターに頼み、スムーズにいき、面接まで助けてもらいました。間違いのリスクを減らすにはとてもよかったですと思いますし、ESL の大学を決めるのに時間がかかってしまった人にはおすすめです。地元が北海道なので、面接の日程が他の都府県よりも少なかったため、もし満員であったら、もっと大変だったと思います。私の場合、パスポートを新しくしていったので、証明写真や手続きなどもしました。同志社女子大学の大学寮から実家への荷物の搬送なども少し大変でしたが、実家で少しのんびりする時間を作ることができたのは良かったです。その他に ESL の大学と MBC について、その州について事前に調べました。語学面では、英語のテレビ番組を見て単語を増やしたり、もともと洋画や洋楽が好きだったので耳を慣らしたりしました。あとは、日本の文化についてある程度の知識をつけ、日本のことを紹介するためにお土産や折り紙を買いました。（日本風のはがきや便箋は喜ばれました。）また、ESL の大学へ行ったことのある方にお会いし、どのような雰囲気であったかをお聞きしました。同志社女子大学の Visa カードとマスターカード、あと CITI BANK でカードを作りました。実際、どちらかのカードが使えない時もあったため、2 枚は必ず作っておいたほうがいいと思います。トラベラーズチェックも持って行きましたが、ディズニーランドなどでの入場券では使えませんが、そのほかの小さな店では使えないので要注意です！

②現地到着後

私は、時差ぼけが激しいので念のため 2 日前にアメリカに到着しました。空港からホテルまでは ESL の担当の方が車で送ってくれました。2 日後はタクシーで ESL の大学へ行きました。初めて、チップの制度を経験して緊張したことを覚えています。着いて早速寮の鍵と学生カードを作りました。その後、留学生をサポートしてくれるアメリカ人がスーパーマーケットまで連れて行ってきて必要なものを買いました。夏休み中だったので、学生が少なく殺風景でしたが、その分図書館やカフェテリアなどが空いていたのでとても便利でした。次の日にはレベル分けテストとオリエンテーションが立て続けにありました。レベル分けテストは、Reading、Listening、Writing のあとに面接がありました。お昼休憩後は、先生方の紹介とキャンパスツアー、教科書の購入、諸手続きがありました。手続きは、大学の ESL 担当の方が助けて下さったため、スムーズにできました。夏のプログラムということで、正規の留学生は旅行、または実家に帰っていたため、ESL を取っていたのは 8 割がサウジアラビア人、1 割が韓国人、0.5 割が日本人、0.5 割がその他という比率でした。秋学期からは早稲田大学の留学生が毎年 20 人以上来るらしいので、日本人が少な

い中で学べたのは自分にとってはとてもいい環境でした。

③語学研修期間

語学研修は、オレゴン州のポートランドにある Lewis & Clark College にしました。ポートランドはオーガニックに力を入れている街で、日本食料理店や日本食を取り扱っているスーパーマーケットがあります。交通機関も充実しており、バス、または路面電車でショッピングモールへ簡単に行くことができます。Lewis & Clark College は全米で 2 番目にきれいなキャンパスと言われており、自然がたくさんありました。小さな森や花壇もあり、勉強をするのにはとてもいい環境でした。夏休み期間中でしたが、図書館やジムも開いており、とても便利でした。留学生にはフレンドシップファミリーといって、週末にどこかへ一緒に出かけたり、ご飯を食べたりする、ホストファミリーのような制度があります。この制度でとても素晴らしい夫婦に出会いました。留学を終えた今でも連絡を取り合っています。勉強内容は、Reading と Writing の授業が 9 時から 11 時 20 分まで、Listening の授業が 11 時 30 分から 12 時 50 分まで、お昼の後に Speaking の授業が 1 時 45 分から 3 時まででした。どの授業でもプレゼンテーションが毎週、グループディスカッションが毎日ありました。そのおかげで英語力はすごく上達しました。課題はとても多かったです。全ての授業から毎日出されるので大変でした。7 月 4 日の独立記念日の花火を見た後に午前 4 時までプレゼンテーションの準備をしたこともありました。毎週月曜日は小テストがあり、単語の勉強をしました。試験は主に中間テストと期末テストの 2 回がありました。課題がとても多かったのでその分勉強する時間は少なかったのですが、先生の授業を聴いていれば大丈夫でした。クラスの人数は 15 人と少人数なので先生も名前を覚えてくれますし、親身に相談に乗ってくれるのでとても助かりました。

④正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

8 月 27 日からバージニア州にある Mary Baldwin College での留学生活が始まりました。丘の上にあるので、上り下りが少し大変でしたがとてもかわいらしいキャンパスです。図書館は夜中の 12 時まで開いているのでとても便利でした。Wi-Fi はキャンパス内で使えるのでインターネットを使い放題です。履修登録は、正規の学生が登録した後なので、定員オーバーで取ることができなかった科目もありましたが、なんとか自分の本当に取りたかった科目がとれたので良かったです。

◆履修科目

MBC101（オリエンテーション）… 留学生は必ず取ります。近況報告や、行事説明が中心です。

INT103（American culture）… 毎回違うテーマでアメリカについて学ぶことができます。アメリカの政治（ちょうど大統領選があったので詳しく勉強しました）や女性学、歴史や行事など様々で面白かったです。そしてゲストスピーカーの教授がたまに来て、興味深いレクチャーをしてくれます。

AS270 (Australia& New Zealand History) …週に1回で3時間の授業です。夜の6時30分から9時30分という日本ではあまり聞かない時間帯だったので取りました。後半にオーストラリアかニュージーランドの映画を見て、感想を書いて提出します。

HIST265 (African American History to 1877) … ディスカッションやエッセイを提出します。レベルは少し高めですが、とても勉強になります。

ENG103 (English as a Second Language) … Writing 中心でした。色々なテーマに合わせて書いて提出します。

PHE148 Ballroom Dance … アメリカ文化にとっても興味があるので、ダンスの授業を取りました。基本のステップから入るのでとても楽しくできましたし、語学力は関係ないのでリラックスして授業を受けることができました。

◆授業、レポート、定期試験

私が取った授業は、筆記試験よりもエッセイの提出が主だったので、中間試験や期末試験は期間中よりもその前の週が大変でした。期末試験は自分で好きな日にちを選ぶことができ、私は夜6時30分からテストを受けました。私の場合、オープンブック、オープンノート（教科書とノートを見てテストを受けられる）だったのでテスト時間よりも前に終了することができました。

⑤クラブ、課外活動、ボランティア活動

MBCではCOSMOSといって、インターナショナルに焦点を当てたクラブに所属していました。日本の文化や他の文化について学んだり、カラオケやハロウィンパーティーをしたりして、盛り上がりました。その他にInternational Circle Kというボランティアサークルに参加し、ハイウェイのゴミ拾いに参加しました。そこで出会った方に、ボランティアはアメリカ文化の1つだということを教わりましたし貴重な経験をしました。

⑥現地での住まいについて

語学研修中 (Lewis & Clark College) は1人部屋の寮に入りました。キャンパス内にあり、キッチンやお風呂は4人で使い、部屋は1人で使えるというシェアハウスのようなタイプだったので、過ごしやすかったです。私は2人のアメリカ人と中国人と住みました。英語が上達しましたし、部屋に戻れば自分の時間を持てるので、リラックスして生活することができました。夏休み期間中だったので、ダイニングホールはお昼だけで朝と夜は自分で作りました。最初は苦だったのですが、ルームメイトと一緒に日本食を作ったり、アメリカ料理を作ったりと、とても楽しい経験ができました。とても綺麗な寮だったので大満足でした。

語学研修が終わった後、2週間語学学校に行ったのですが、その時はホームステイをしました。語学学校のオプションだったので、学校側が決めてくれたので楽でした。たくさんルールがありましたが、ホストファミリーと韓国人、ブラジル人の留学生とも仲良くなれたので良かったです。通学時間は50分で路面電車 (MAX) と徒歩で語学学校まで行っていました。

MBCではキャンパス内にある寮で韓国人の留学生がルームメイトでした。インターナショナルの寮だったので、良い面はなんでも聞けること、悪い面はアメリカ人との交流が少ないことが挙げられます。比較的綺麗な寮で、1つ1つの部屋が広がりました。洗濯機は無料で使い放題です。インターネットも使い放題ですが、ときどき繋がりにくかったです。食事は3食ダイニングホールで食べました。ほとんど同じメニューなので調味料などを使って自分でアレンジするのもいいと思います。日曜日などは友達とダウンタウンに行って食事をしていました。ピザ屋さんがおすすめです！

⑦長期休暇の過ごし方

語学研修後はLAにあるルームメイトの家に2週間ほどいました。ハリウッドやLAのディズニーランドへいくことができました。その後はポートランドに戻り、Kaplan International Portlandという語学学校で2週間勉強しました。アジアからの学生の他に、ブラジルやイタリアの友達ことができました。Fall Breakはペンシルベニア州のフィラデルフィアへ行き、Thanks Givingにはフロリダ州オーランドのディズニーランドとユニバーサルスタジオへ行ってきました。Winter Breakは、アムトラックでワシントンDCに1日、アムトラックでニューヨークへ行き、5日間滞在し、飛行機でポートランドのフレンドシップファミリーの家に6日間、アムトラックでシアトルに3日間、バスでバンクーバーに4日間滞在しました。休暇中はたくさんの都市へ行くことができますし、地域によって違うのでとても楽しかったです。

⑧留学期間中の就職活動の取り組み

念願のアメリカ留学だったので、就職活動のことは何も考えないようにしました。春学期からの留学からなら、就職活動に間に合うと思うので、勉強と、思い出作りに専念してほしいと思います。

II. 留学の感想

①留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

この留学を通して、たくさんの人に出会えたことが1番の収穫です。アメリカ人だけでなく、さまざまな国から来た人達に会い、その国々の文化を学ぶこともできました。

②留学中つらかったこと、最も苦勞したこと

辛いことも、苦勞したこともありません。大学の教授もサポートしてくれましたし、設備も充実していたので何も問題はなかったです。1つ言えることは、自分で行動したら、皆が助けてくれるということです。何がしたいのか、どうしてほしいのかということを明確に伝えたら、助けてくれます。例えば、少し難しい授業を取りましたが、初日に教授に頼んで、チューターをつけてもらいました。なので、毎週チューターと一緒に復習できましたし、テスト勉強も一緒に勉強したので苦勞することはありませんでした。毎日が充実していて楽しい思い出しかありません。MBCにはアメリカ兵になりたい人達のコースがあるので、迷彩の服を着た学生がたくさんいますし、一緒に授業を受ける時もあります。私は、

将来アメリカ兵になりたいという学生と友達になりましたし、彼女から興味深い話を聞くこともできました。また、アフリカンアメリカンの授業を取っていたので、アフリカンアメリカンの友達もできました。色々なことを聴くことができ、また、日本の良さを伝えることもできて良かったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

①留学先大学の良かった点、悪かった点

不安なこともたくさんあると思いますが、留学によって得ることがたくさんあります。MBCは留学生にとっても親切な大学だと思います。質問したらちゃんと答えが返ってきますし、要望にもこたえてくれます。田舎にあるので、安全なほうだと思います。しかし、車がなければ移動が難しいです。

②日本から持って行って、特に役に立ったもの

日本から持って行ってよかったものは、パソコン、薬、日本のお土産、浴衣くらいです。あとは、アメリカで買えます。

③語学力の向上等、留学の成果

日本語を話さないように心がければ、自然にスピーキング力とリスニング力が上達します。授業では必ずエッセイを書かなければならないので、ライティング力が上がりますし、その資料集めで本や記事を読むのでリーディング力もつきます。なので、焦らず、自分のペースで楽しんでほしいと思います。あとは、自分から進んでなんでも挑戦してほしいと思います。失敗を恐れずに頑張ってください。ハプニングもつきものです。それを乗り越えた後に精神的に強くなります。大丈夫です、どうにかかります。なので、楽しんでくださいね！

IV. 写真

MBC で Ballroom Dance の授業を取りました。アメリカの文化を学ぶことができるので本当に良い経験ができました。写真は、ダンスパートナーと先生です。



Lewis & Clark College の Friendship Family 制度で出会った夫婦です。今でも連絡をとっており、クリスマス中に会いに行きました。



Y. S. 社会システム学科・3年次

I. 留学レポート

①留学決定から出発までの準備期間

特に勉強という勉強はしていませんでした。ただ、洋画を観たり洋楽を聞いたりしてモチベーションを上げるように心がけていました。また、自分の専攻に関して勉強していくのがいいと思います。日本語でのベースがあればアメリカの大学でも困らないと思います。ビザは早めに取りました。時期によっては米国大使館が混雑していることもあるので、面接は早く予約するのがいいと思います。念には念を入れて、必要書類は確認しておくことをお勧めします。

②現地到着後

空港から語学学校までは、語学学校のシャトルバスを利用しました。理由は、荷物も多いし、着いてすぐで気持ちにも余裕がないだろうと思ったからです。私が通った Fredericksburg, VA は DC のダレス空港から 2 時間弱の場所にあります。着いた翌日にクラス分けテストがあり、その後に軽く手続き、オリエンテーション等がありました。

③語学研修期間

私は全米に 50 か所ある ELS という語学学校に行きました。場所は VA の Fredericksburg で、個人的にお勧めです。というのは、まず 2011 年の 11 月に新しくできたセンターのため、とてもきれいで施設も整っていたからです。University of Mary Washington (UMW) のキャンパス内にある語学学校で、寮も学生と同じ所でした。私の場合は、ルームメイトが留学生ばかりだったのですが、UMW の生徒と同室になることも可能だということでした。また立地に関して言えば、DC や Richmond 等にアクセスしやすい場所にあり、大きな遊園地も近くにあるため、大変便利でした。徒歩 2~3 分圏内にはアイスクリームショップやスーパーマーケットがあり、バスを使えばモールや映画館にもすぐ行けました。インターナショナルのスーパーマーケットもありました。

授業の内容は、午前に文法、リーディング、ライティングがあり、午後はそのセッションによって異なっていたのですが主にスピーキング中心の授業でした。毎日宿題はありましたが負担になるような量でもなかったです。試験は中間と期末がありました。1 セッションが 4 週間なので、2 週間ごとにテストがあるという感じです。

④正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

大学の施設は普通でした。どこも全て少し古いという感じでしたが、学内で何でも済ませられて楽でした。大学周辺には特に何もなかったです。ダウンタウンは近いですが、これといった店はありません。少し不便だと感じましたが、勉強するには良いところだと思います。

◆履修科目

・MBC101 (Orientation of MBC)

必修です。4回のエッセイと、3回のフィールドトリップがありました。授業内容はとても簡単で、他の授業の息抜きになると思います。エッセイと出席が主な評価対象です。

・INT130 (American Culture)

ほとんどの留学生が履修していました。8回程エッセイがありましたが、1回の分量は少なく、難しくない授業でした。また3度プレゼンもありました。エッセイ、プレゼン、出席（授業態度）で評価していたようです。

・ECON101 (Micro Economics)

ミクロ経済の概論です。週に1回 Problem & Set と言われる宿題がありますが、これは各チャプターの復習のようなものなので難しくはありませんでした。むしろポイントを押さえて復習できたのでよかったです。宿題、各チャプターのポップクイズ、2~3回の間接試験と期末試験で評価されます。

・BUAD260 (Personal Finance)

授業が一番楽だったかもしれません。理由はあまり授業らしくなかったからです。ただ、週に1回必ず宿題があり、それを基にして最終課題をこなすという感じでした。内容は、アメリカのローン、保険、貯蓄、確定申告などについてです。日本との違いがよく分かり面白かったですが、日本で生かせる知識ではないなと思いました。

・BUAD305 (Global Business)

授業は少し難しかったです。本を読んで要約したり、International Café という講演会を聞くにあたって Preparation Paper を作り、聞いた後に Reaction Paper を作ったりしました。そのため週に1回はエッセイがありました。最終目標は、Bottom Billion と呼ばれる最貧国での仮想ビジネスで、5~6枚のペーパーとプレゼンを作りました。大変な授業でしたが、やりがいがありました。

⑤クラブ、課外活動、ボランティア

・コスモス

多くの留学生と日本語の授業を取っている学生が所属していました。みんなでゲームをしたり、パーティーをしたり、DVDを観たり、と緩い活動をしていました。

・チアリーディング

10月に3日間トライアウトがあり、そのあと入部します。しかし実際活動が始まるのは11月末でした。1セメスターしかMBCにいない人にはあまりお勧めできません。

⑥現地での住まいについて

Fredericksburg

寮に住んでいました。2LDKの部屋に4人でした。それぞれの部屋にはバスルームもあり、とてもきれいでした。寮を選んだ理由は現地の生徒と一緒に住みたかったからで、結局私は留学生ばかりの部屋に配属されましたが、友達がたくさんできたので満足しました。私

が特に気に入っていた設備はジムです。2階建てで様々なマシンがありました。また、寮の中庭にはサッカーをできるくらいのスペースがあり、実際サッカーをしてほかの学生と交流を深めていました。通学時間は徒歩2分、食事はついていませんでしたがスーパーマーケットも徒歩2分で全く苦労しませんでした。

Staunton

寮に住んでいました。私が住んでいたのはWoodsonという寮で、主にMBCの1回生が住んでいます。そのため常に騒がしかった印象があります。各階に共同バスルームがありました。洗濯機は寮に4つしかなく洗濯は大変でした。Memorialという別の寮は留学生のアジア人ばかりなので、Woodsonは環境としては良かったです。

食事は特に食べられないという訳でもなく普通でした。日本人のヤエコさんという方がいらしたので、たまに日本の味付けに近いものが出たりもしました。

⑦長期休暇の過ごし方

語学学校が8月半ばに終わり、大学が始まる8月末までという期間だったのでFredericksburgに滞在していました。そのためその期間に特に大きな旅行はしませんでした。ただ、語学学校のセッションの間は3~4日あるので、その期間に4~5人で車を借りて近場を旅行しました。

⑧留学期間中の就職活動の取り組み

ボストンキャリアフォーラムに行ってきました。4年制大学に行っているような人が多かったため、特に何もできずに終わってしまいました。しかしとても良い経験になったと思います。また、エントリーは12月に入ってから行っていました。

II. 留学の感想

①留学中で楽しかったこと

留学中、全てを楽しんできました。遊園地やバージニアビーチに行ったり、学校のアクティビティでNYに行ったりと、とにかく出来ることは全てやったと思います。部屋でパーティーをしたのが特に楽しかったです。

また、友人が1週間ほど夏休みに遊びに来てくれたことが思い出に残っています。

②留学中で辛かったこと

語学学校は、仲の良い子が卒業したり休暇を取ったりと生徒の入れ替わりがあったので、会えなくなる友達がどんどん増えていって辛かったです。

MBCでは期末試験の期間より中間試験の時期が大変でした。中間では課題が多く、要領もつかめていなかったのでスランプに陥ってしまいました。

③文化・習慣の違いなどで驚いたこと

他の国から来ている人はお金持ちが多く、金銭感覚が違う気がしました。同じようにお金を使っていると知らない間に使いすぎている時がありました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

①留学先大学の良かった点、悪かった点

周囲に何もいないため勉強に集中できてよかったです、交通の便が悪くとても苦労しました。

②日本から持って行って、特に役立ったもの

パソコンは必須です。スマホの代わりに ipod touch が便利でした。またプリペイドの携帯を買っている人が多かったです。イブなど常備薬もあると安心できます。基本、向こうで何でも買えるので心配いらないと思います。

③語学力の向上、留学の成果

多分向上したと思いますが、実際あまり実感はありません。映画を字幕なしで見られるようになったのは成長かなと思います。

④これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

やる気さえあれば何とかできます！ポジティブに何でも楽しむことが留学の成功の鍵だと思います。留学したい人はぜひチャレンジしてみてください。応援しています。

Ⅳ. 写真



左の子が ELS を卒業する日でした。語学学校は人の入れ替えが早いので、仲がいい子が卒業していくことが本当に寂しかったです。



ELS の寮でのパーティー。10 人くらいで集まり、みんなで料理を作ったり、終わったらゲームをしたりしていました。

2012 年度 (春スタート)
Mary Baldwin College



MBC のイベント Junior Dad。ドレスアップして、料理とダンスを楽しみました。



MBC の寮の部屋で誕生日パーティーをしました。メンバーは Woodson に住んでいる International の友達です。

A. H. 社会システム学科・3 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

・ビザ申請

ビザ申請の手続きは特に時間がかかりました。銀行、大学、出身高校から書類を取り寄せなければならなかったためです。私の場合、地元が愛知県なので、書類の取り寄せを親や祖父母に協力してもらいました。郵送の期間も入れると、すべて揃えるのに数週間はかかりました。また、書類がそろったら、大阪にある大使館へ行く予約もしなければなりません。私の場合、早めに予約しなかったため選択できる日数が限られていました。なので、次に留学に行かれる方には、早めにビザの申請をすることをお勧めします。

・荷物の買い出しと引っ越し

あとの荷物のところでも書きますが、荷物は先輩の方々から聞いたものがとても役に立ちました。それらのものを買そろえるのにも時間をつかいました。それほど、特別なものはありませんでしたが、いくつかのお店に行ったので、これもなかなか時間がかかりました。また、私は一度留学前に住んでいたマンションを引き払わなければならなかったので、留学と引っ越しの荷物の整理に4月は追われていました。

・語学勉強

たくさんやることがあったので、TOEFL を受けていた期間や、留学の試験前ほど勉強の時間は取れませんでした。でも、TOEFL の単語帳をたまに見て勉強したり、英会話スクールに行っていたので、少し行く頻度を増やしたりして、極力英語に触れるようにしました。語学勉強は、隙間時間を見つけては、コツコツとやっていた感じです。

② 現地到着後

ESL を受講する大学に空港からの送迎を頼んでいたもので、大学関係者の方がワシントン DC の空港まで迎えに来てくれました。この空港から ESL の受講先まで車で2時間ほどだったと思います。とても優しい方で大学のことを教えてくれたり、昼ご飯を御馳走してくれたりしました。ESL を受ける大学についてすぐ、今後生活するアパートへ行きました。その日は、隣に住んでいる現地の大学生の子に大学のことをいろいろ習って、その後、アパートで休みました。さまざまな生活必需品はその翌日に ESL の事務員さんと買い出しに行きました。いろいろなものを買いましたが、ESL にも使っていない家電（電子レンジ）や料理道具（鍋など）があったので、それを借りてやりくりしていました。現地について3日目くらいにクラス分けのテストそして、オリエンテーションがありました。テストでクラスが分かれた後、クラスごとにオリエンテーションがありました。ここで日本から持っていた資料（保険についての書類等）を提出したり、キャンパスツアーをして、学内を案内してもらいました。オリエンテーションの後に希望者には銀行口座の開設を手伝ってもらえるということだったので、ESL の事務員の方に銀行まで連れて行ってもらう口座をつくり

ました。日本よりも簡単に口座が開けますし、デビットカードも同時につくれるので、便利でした。この口座を使って親から生活費を送金してもらっていました。口座を持っていない人もいましたが、私は留学期間が長かったので、つくっておいてよかったなと思っています。それに、アメリカはカード社会なので、クレジットカードも持って行きましたが、クレジットカードと同じように使えるデビットカードは重宝しました。

③ 語学研修期間

Eastern Mennonite University (EMU) という大学の一機関である Intensive English Program というところで ESL を受講しました。Mary Baldwin College (MBC) とは車で 30 分くらいのところに位置し、2 年前にここへ行った先輩方からの評判がよく、EMU から MBC の引っ越しが楽だと思いここに決めました。大学の中にある ESL だったので、大学の図書館やジムなどが使えて便利でした。また、ハウスメイトはほとんどが現地の大学生だったので、友達を作ることができました。

〈授業内容〉

第一期：文法とリスニング

午前中は文法、午後はリスニングの授業でした。文法はロシア人の先生だったので、普段ネイティブが当たり前と思っていることも理論的に説明してくれてわかりやすかったです。午後のリスニングの先生はとにかく面白い人でした。授業はいつも笑いが絶えない感じでした。たまに、30 分で調べてそのままクラスメイトの前でプレゼンをしなければならないこともあって大変でしたが、度胸はついた気がしますし、授業は基本ラフな感じなのでそこまで緊張する必要もありませんでした。

第二期：リーディングと調査

一日中同じクラスですが、午前はリーディング、午後は地域の人へのインタビュー活動をしていました。一日に 10 ページから 20 ページを宿題として読み、その内容についてみんなが要約したり、話し合ったりしていました。そして、毎日その話し合った内容について 2 枚分のレポートを書いていたことをしていました。私は韓国人のクラスメイトとコーヒーショップへ行き、そこへ来ていたお客さんの何人かにインタビューをして、そのお店がどれほど地域に密着しているのかをレポートにまとめて発表しました。

第三期：ライティング

この時期は一日中同じクラスで、レポートの書き方を学びました。時期の前半は自分で一冊決めた本についてブックレポートを書きました。授業時間内に本を読む時間が与えられていたので、そこまで宿題として本を読まなくても大丈夫でした。後半は自分で決めたトピックについて 2 つの要素から比較をするレポートを書きました。私は飛行機が好きだったのでアメリカの航空会社 2 社について比較し、まとめました。先生は元編集者の方だったので、丁寧に私の書いたレポートを添削してくれました。ここでもらった教材は、MBC に行ってから時々使えて役に立ちました。

④ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

MBC は EMU 同様、静かなところにあり勉強をするには最適の環境だったと思います。大学の建物は新しくはないですが、基本的にきれいでした。毎日遅くまで勉強していましたが、図書館が 0 時までやっていたのでほとんど毎日そこで閉館時間まで友達と勉強していました。

◆履修科目

POLS100 : 政治学の授業でした。アメリカの政治制度が日本とは大きく違うということに興味があったので履修しました。内容は政治学を全般的に学びました。語句を覚えるというよりは、なぜその制度なのか、何がアメリカ政治の特徴なのか、ということを理解するような授業でした。各章が終わるごとに小テストをしていました。また、授業の最後にはブックレポートを書きました。定期試験は計 3 回ありました。どれも、語句の意味を問うというよりは、政治の流れ全体を理解しているかどうかをみるテストでした。

SOC112 : 社会学の基礎を学ぶ授業でした。私のゼミではアメリカを多文化主義社会ととらえて研究をしていくので、この授業が一番近いとアドバイザーの先生に言っていたので履修しました。貧困、差別、環境、等の社会問題の現状について学びました。授業の最後にボランティア団体についてのレポートを書きました。定期試験は 4 回ありました。事前に半分以上の問題を教えてくれるので、ポイントを記憶してそれをテストで文章にしていました。先生は留学生に大変理解のある方だったので、とても優しかったです。

HIST111 : 入植から市民戦争までの歴史を学ぶ授業でした。昔のヨーロッパ人が書いた文章を読んだり、先生の解説を聞いたりして当時の人々がどのように考え生活をしていたのかを考える授業でした。3 回程レポートを書きました。昔の文章を読んでそれを分析するというものでした。最初はよくわからないまま書いていましたが、授業中に書き方、分析の仕方を教えてくれました。

AMST230 : アメリカ学の授業でした。具体的には、近現代の文章を読んで、その人がどのようにアメリカを捉えているのかということについて考える授業でした。ほかの授業に比べてやっている内容が抽象的だったので、理解に大変苦しみました。レポートは毎週末書いていました。トピックも毎週抽象的なものなので、一日かけて書いていました。この授業もチューターをつけたので、毎週レポートの添削をお願いしていました。

MBC101 : オリエンテーションをする授業でした。クラスメイトは全員留学生だったので、緊張せずに楽しい授業でした。フィールドトリップとして 3 回程歴史的な建物や資料館に行きました。そのついでに買い物に寄ってくれたので、楽しい遠足のような感じでした。

⑤クラブ、課外活動、ボランティア活動

これといったクラブや課外活動等はしていませんでした。唯一、アメリカ大統領選挙の時、政治学の授業を取っていた関係で、大学で大統領選挙についての番組を制作し、学内に向けて放送するというイベントのスタッフをしました。選挙の時に流れるニュース特番を自

分たちの手でつくっていました。各州のデータをリアルタイムで集め、それをアナウンサー役の人が読み上げたり、政治に関するムービーを放送したりしていました。私は、学内でこの放送が見られる会場の運営をしていました。アメリカの歴史的瞬間に少し携われたのでとてもいい経験になりました。

⑥現地での住まい

語学研修期間：授業を受けていた建物のすぐ裏にあるアパートに住んでいました。ルームメイトは一緒に行った友達だったので、とても楽しく過ごしていました。また、このアパートにはもう一つベッドルームがあったので、そこには EMU の学生が 2 人居ました。二人ともとてもいい人で、優しかったです。また、車を持っていたのでたまに乗せてもらい買い物などへ行きました。食事は自炊をしていました。主に、日本食を作るようにしていました。アパートにはベッドルームが 2 つ、リビング、ダイニング、があったので広めだったと思います。

正規科目履修期間：大学内にある寮に住んでいました。この寮の私が住んでいた階にはアジア圏からきた学生とその生徒たちとルームメイトになりたい現地の学生が住んでいました。日本人同士、仲が良かったので寮自体の居心地はよかったです。ただ、私のルームメイトと私はいろいろな場面で価値観が違ったので、それを伝え、わかってもらうのに苦労しました。ご飯は毎食学食でした。たまに、MBC の教授をやっているホストマザーがご飯に連れて行ってくれました。どのお店も本当においしかったです。

⑦長期休暇の過ごし方

夏休みが 1 か月くらいあったので、ニューヨークと西海岸とディズニーワールドへ行き、二つの旅行の間にはホームステイをしました。ニューヨークでは主な観光地を路面バスのようなもので巡りました。西海岸は安いツアーを EMU のクラスメイトが見つけてくれたので、友達と 3 人でそのツアーに申し込みました。ラスベガス・ロサンゼルス・サンフランシスコ・サンディエゴへ行きました。大学がある東海岸とはまた違った雰囲気でも楽しかったです。そして、EMU の近くでホームステイをしました。ここは EMU の人に紹介してもらいました。優しい家族で、日本の文化について興味を持ってくれました。その後、夏休み最後の一週間はディズニーワールドへ行きました。アメリカは飛行機の国内線がとても安く乗れるので、そこまでお金をかけずに行くことができました。MBC へ行ってからは、2 回 1 週間ほどの休暇がありました。一回目は就活のためにボストンへ行きました。2 回目は EMU の時に知り合った友達の家へ遊びに行きました。ちょうどサンクスギビングだったので、EMU の教授の方にお家へ呼んでいただいたり、買い物へいたりして過ごしました。

⑧留学期間中の就職活動の取り組み

先ほど書いたように、1 回目の連休の時に就活のためにボストンへ行きました。この催しは、現在留学している人、留学経験がある人向けのセミナーでした。雰囲気的には合同説明会と面接会場が一緒になっている感じで、4 回生が主な対象でした。でも、他回生も参加できるので、企業研究を兼ねて行きました。正直、履歴書を用意したりしなければならなかつ

たので、勉強との両立が大変でした。でも、ボストンの観光もできたのでよい思い出にはなりました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中に最も印象深かったことが二つあります。一つはアメリカの国会議員の人が大学を訪れ、その人と話せたことです。その方の日本やアジアに対する考えを聞くことができ、大変貴重な経験をさせてもらえたと思います。もう一つはホストファミリーと大学主催のパーティーに参加したことです。私と友達を子供のように本当にかわいがってくれていたのですが、パーティーに参加する際、私たちのドレスに合わせた花飾りをプレゼントしてくれました。アメリカでは子供の入学式などの晴れの日には花飾りをあげる文化があるらしく、これに習って私たちにプレゼントしてくれたと思うと本当にうれしかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中、特に MBC に行ってから毎日勉強でつらかったです。自分の好きなことについて勉強できたので楽しいと感じるときもありましたが、膨大な量をこなさなければならなかったのも、きついなと日々感じていました。履修をした段階で、私の取った授業はどれも大変なものだから、留学生の中で一番きつくて忙しいと思うよ、とアドバイザーの先生から言われていました。少し迷いましたが、せっかく勉強をしに来たのでとことん学んで帰ろうと決心して履修を組みました。言われた通り、本当に毎日何時間も勉強して忙しかったですし、苦労しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本人がいかにキレイ好きかということをもって体験しました。私のルームメイトはトイレから帰ってきても手を洗わなかったり、少々腐ったものでも食べたりしていました。ほかの人でも、教科書やカバンを平気でトイレの床に置いたりしていました。なので、私は消毒液を友達からもらって、自分で気を付けていました。また、食事は油っこいものや味つけの濃いものが多かったです。日本食が本当に恋しくなりました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

EMU も MBC も田舎にある大学だったというのが良い点であり、悪い点だったと思います。良い点でいうと、どちらの大学も勉強に集中できる環境だったと思います。外がうるさいということもなかったですし、治安も比較的良い地域でした。また、街や大学の規模が小さいのでお互いのつながりをとっても大切にされていて、留学生に対してもフレンドリーでした。特に、教授の方々はとても優しくかったです。私を子供のようにしたってくれた方もいますし、オフィスへ行くと快くアドバイスをしてくれる教授ばかりでした。悪い点でいうと、大都会ではないので交通の不便さは日々ありました。市バスのようなものはありまし

たが、一時間に一本程度と大変少なく、大学の近くにはスーパーと薬局くらいしかないの
で、生活雑貨や服が欲しいと思ったとき不便だなと感じました。車を持っている人に車を出してもらおうよう頼んだこともありましたが、向こうの都合もあったりするので、何度も頼むのは気が引けました。

②日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必需品だと思います。語学研修のときからかなりレポートを書くので、時には学校に持って行って、教室で書くこともありましたが、MBCではもっと活用しました。基本的に小テストはインターネットを通じてやったりしますし、レポートの提出もメールやネットでやるが多かったです。他には、日本食はできるだけたくさん持って行った方がいいと思います。私は、インスタントの味噌汁、梅干し、せんべい、電子レンジで温めるだけでよい白飯、ラーメン、等を持っていきました。後半は日本食がかなり恋しくなりました。あと、日本で使っていたスマートフォンは重宝しました。大学内ではWi-Fiが使えるのでアプリを使って友達と連絡を取り合っていました。

③語学力の向上等、留学の成果

聞く力と書く力は格段上がった気がします。授業や普段の会話で英語をシャワーのように浴びていたもので、少しずつではありますが留学したての頃と比べると、留学の後半は聞き取れる量が増えた気がします。また、大学では大量のレポートをこなさなければならなかったもので、書く力はTOEFLを受けていた頃より上がりました。具体的には、長い文章を書けるようになりましたし、自分の考えが少しずつ理論的に書けるようになりました。授業の最後に提出したレポートで教授から、今まで出してくれた中で一番よいできだった、質問に対する答えのポイントがわかりやすくまとまっているね、と言ってもらえました。さらに、留学では単に語学力というだけでなく、自分のバイタリティが上がった気がします。留学中はバックボーンが全く違う人たちとたくさん出会えます。そうした中で自分の考えを貫き通したり、自分の常識を相手に理解してもらおうが難しいときがあります。でもお互いに少しだけ我慢したり、先入観などにとらわれず心を少し広げたりすることで、どんな環境でもやっていける人に近づけた気がします。なので、この8か月で自分は本当に成長できた気がします。

④これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学を少しでも考えているのなら、家族の協力などもありますがチャレンジしてみることをお勧めします。たぶん、留学に行くと損をすることは一つもないと思います。留学を決意する前は、留学したいけど自分の力でやっていけるかとても不安だったし、親も快諾してくれたわけではありませんでした。でも、留学した方の話などを聞くうちに、どこまでできるかわからないけど、チャレンジして自分を成長させたいと本気で思ったので親を説得し、留学をさせてもらいました。結果、行ってよかったと思いますし、充実した8か月でした。この留学という経験を一人でも多くの人にしてもらいたいです。不安や悩みもあると思いますが、留学生活は決して日本では体験できないことですし、自分を成長させら

れる良い機会になると思います。

IV. 写真

この写真は語学研修先でフィールドトリップとして大学の近くにある国立公園を訪れた時の写真です。一番右が私です。この3人はずっとクラスが同じで、仲良しでした。真ん中の友達は韓国人で、一番左はタイ人の女の子です。二人とも私のお姉さんの存在でした。



この写真は、上に書いたように大統領選挙のとき大学の企画でスタッフをした時の写真です。同じ授業を取っていたクラスメイトが声をかけてくれて、一緒に写真を撮りました。大統領選挙は一種のお祭りのような感じで、とても盛り上がっていました。

